

2. アメリカにおける WKS82/130-9-1 輸入許可書類

(注：本図に記載された情報に係る権利及び内容の責任は申請者にある。)



「 隔離ほ場周辺の植生調査 」

1. 隔離ほ場周辺の植生調査

1

「 隔離ほ場周辺の植生調査 」

1. 隔離ほ場周辺の植生調査

[目的]

隔離ほ場周辺の生物相を調査し、遺伝子組換えバラと交雑可能な植物種の存在を把握する。

[調査方法]

平成17年5月に隔離ほ場の周囲に自生している野生植物を調査し、採取後、分離同定した。さらに平成17年5月及び8月に隔離ほ場から1kmの圏内(図1)に自生しているバラ科植物を調査し、採取後、分類同定した。隔離ほ場から500mの圏内に自生が認められたバラ属の近縁野生種については、その自生場所、種類、生育状況を調査した。

[結果と結論]

隔離ほ場の周囲に自生していた野生植物は、トクサ科(スギナ)、ゼンマイ科(ゼンマイ)、ウラボシ科(ウラボシ、コシダ)、イノモトソウ科(ワラビ)、オシダ科(ベニシダ、クサソテツ)、マツ科(アカマツ)、ヒノキ科(ネズ)、ヤナギ科(ヤマナラシ)、ブナ科(アラカシ、コナラ、ナラガシワ、クリ、シラカシ)、クワ科(アオコウゾ、コウゾ)、アリノトウグサ科(アリノトウグサ)、ウコギ科(タラノキ、コシアブラ、タカノツメ)、セリ科(セリ)、リョウブ科(リョウブ)、ツツジ科(ヤマツツジ、コバノミツバツツジ、シャシヤンボ、ネジキ、ナツハゼ)、ヤブコウジ科(ヤブコウジ)、サクラソウ科(オカトラノオ、ヌマトラノオ)、カキノキ科(カキ)、モクセイ科(ネズミモチ)、リンドウ科(ツルリンドウ)、ガガイモ科(タチカモメヅル)、アカネカ科(ヘクソカズラ)、クマツヅラ科(クサギ)、バラ科(ミヤコイバラ、フユイチゴ、ニガイイチゴ、クマイイチゴ、モミジイチゴ、オヘビイチゴ、ヤマザクラ、ウワミズザクラ、カスミサクラ、カマツカ、ザイフリボク、ボケ、ワレモコウ)、マメ科(ハネミイヌエンジュ、フジ、ヤマフジ、ナツフジ、ヤブツルアズキ、ヤマハギ)、カタバミ科(カタバミ)、トウダイグサ科(アカメガシワ)、ミカン科(イヌザンショウ、カラスザンショウ)、ウルシ科(ヤマハゼ、ヤマウルシ、ヌルデ)、カエデ科(ウリカエデ)、モチノキ科(イヌツゲ、ソヨゴ、クロガネモチ、ナナミノキ)、クロウメモドキ科(イソノキ)、ブドウ科(ノブドウ)、スマレ科(ニョイスミレ、ナガバナタチツボスミレ、アオイスミレ)、タデ科(ギシギシ)、モクレン科(ホオノキ、タムシバ)、シキミ科(シキミ)、クスノキ科(クロモジ)、アケビ科(ミツバアケビ)、ツヅラフジ科(ツヅラフジ)、ツバキ科(ヒサカキ)、ユキノシタ科(ウツギ)、ゴマノハグサ科(ママコナ)、オオバコ科(オオバコ)、スイカズラ科(コバノガマズミ、スイカズラ)、キク科(アキノキリンソウ、シラヤマギク、ヒメジョオン、ニガナ、サワヒヨドリ、ヒヨドリバナ、コウヤボウキ、チチコグサ、ハハコグサ)、ユリ科(サルトリイバラ、オオバジャノヒゲ、ジャノヒ

ゲ、ノギラン)、ヤマノイモ科 (ヤマノイモ)、イグサ科 (イ)、イネ科 (ケネザサ、メリケンカルカヤ、チガヤ、トダシバ、ススキ)、カヤツリグサ科 (ナキリスゲ、アゼスゲ)、ラン科 (シュンラン) の 52 科 109 種類であった。

隔離ほ場から 1km の圏内に自生していたバラ科植物は、ミヤコイバラ、ノイバラ、ヤブイバラ、フユイチゴ、ニガイイチゴ、クマイイチゴ、クサイイチゴ、ビロードイチゴ、コジキイチゴ、モミジイチゴ、オヘビイチゴ、ヤマザクラ、ウワミズザクラ、カスミサクラ、コヒガンザクラ、カマツカ、ケカマツカ、ザイフリボク、ボケ、ワレモコウ、キンミズヒキ、ミヤマツチグリ、ミツバツチグリであった。これらのうち、遺伝子組換えバラと交雑する可能性がある野生種として特定されたのは、ミヤコイバラ、ノイバラ、ヤブイバラの 1 種と 2 変種であった。図 1 にこれらの自生場所を示した。

さらに、隔離ほ場から 500m の圏内に自生していたミヤコイバラ、ノイバラ、ヤブイバラの自生場所、生育状況等について詳細な調査を行い、その結果を表 1 に示した。なお、これらは各自生場所において複数個体存在すると考えられたが、野生種は吸枝による繁殖が可能であるためその個体数を特定することは困難である。このため、表 1 には各自生場所における平均的な株についての調査結果を示した。

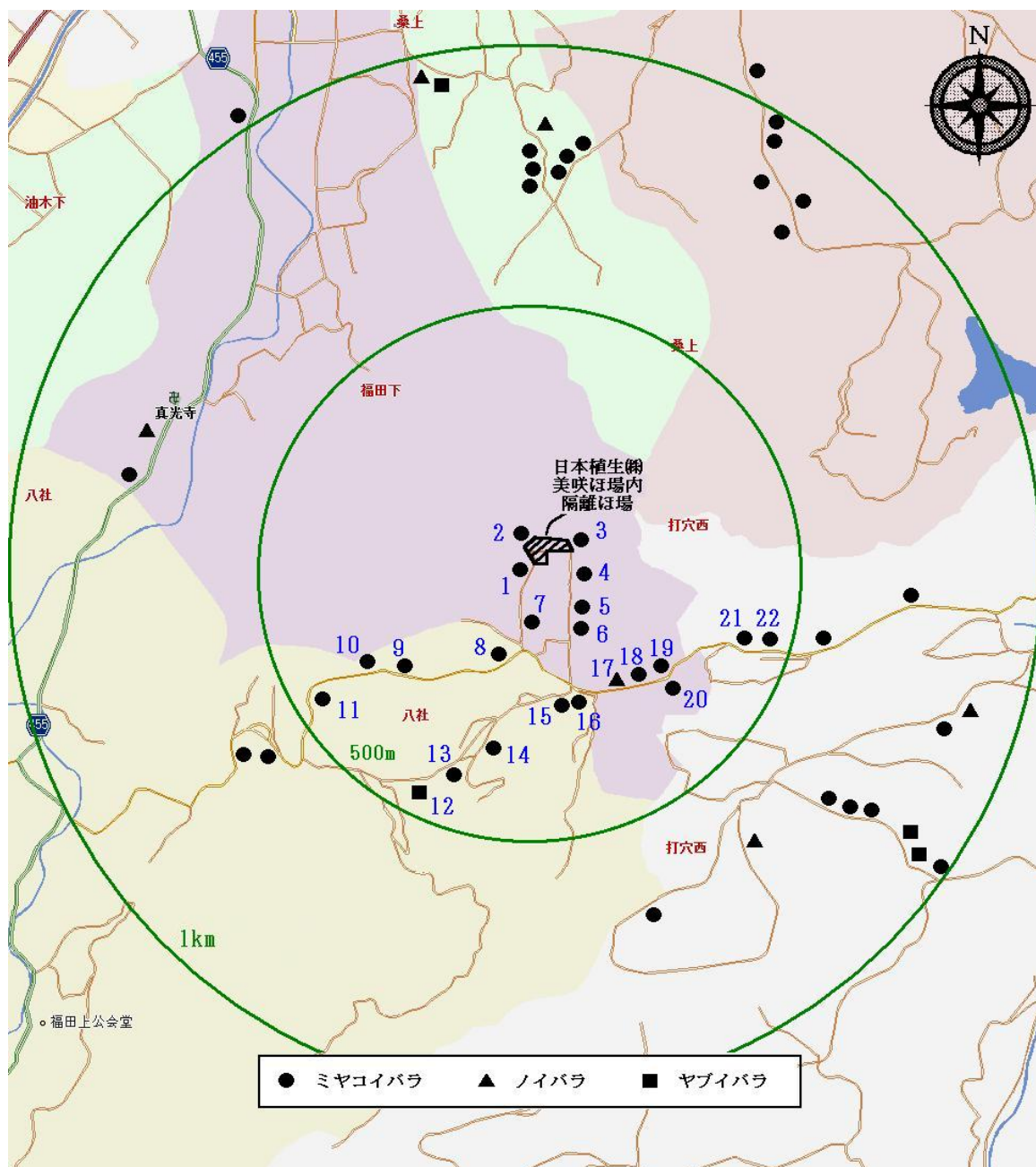


図1. 隔離ほ場周辺（1km 圏内）に自生するバラ属近縁野生種の分布図

※図中に記載した番号は、隔離ほ場より 500m の圏内に自生するバラ属近縁野生種の自生場所の識別番号を示す。

（注：本図に記載された情報に係る権利及び内容の責任は申請者にある。）